

9/21
朝日

あきらめない 自公は覚悟を

地方公務員

(広島県 57)

ごとう「戦争法」が成立しましたが、到底私は認められませんが。憲法学者が言うように違憲だからです。戦後70年、日本をこんな形で変えるのはあまりにも乱暴です。民主主義国家のやることではないか。

母は大正12(1923)年生まれで、一昨年、89歳で亡くなりました。生前、「戦争に負けてよかった。もし勝っていたら軍部がもっと威張っていた」「それぞれの家の幸せがあつてはじ

めて国があると思う」と言っていました。戦前戦後、

母のように本当に苦労した方は数多いです。安倍政権は、そうした戦争体験者の声に全く耳を貸さず、戦争法を成立させたのです。

平和な日本を引き継ぐ責任があり、決してあきらめません。集会、デモ、選挙などあらゆる手段があります。闘いはこれからです。戦争法に賛成した議員をしっかりと覚えておきます。自公の議員はしつぱ返しが来ることを覚悟せよ。国民はそんなに愚かではない。

分からないことばかりなぜ

主婦

(神奈川県 53)

いま安保法制に関する国民投票があったら反対票を投じる。内容が分からないから。憲法や砂川事件の判決文、新聞を丁寧に読み、国会中継を何十時間も見た。政府答弁で繰り返し返された条文や「個別具体的に、総合的に判断する」という言葉などは、ますます言えるようになってきた。だが何を意味するのか分からない。

「国を守る」とはどういうことか。なぜ

軍事力だけ強調されるのか。外交力強化では武力攻撃を受けない国にならないのか。人的・経済的な負担に耐えられるか。

政治家に望む。「他者を尊重し話をよく聞く。主張と理由を分かりやすく具体的に述べる」といふ基本に立ち返り、きちんと説明すること。基本が守られれば、今後の国政選挙の結果を、自分の意見と異なっても受け入れられると思う。

9/21 朝日

一番大切な日々 守るために

高校生

(神奈川県 17)

母が私に「一番大切なものは日々だよ。それを忘れちゃいけないよ」と言った。ハッとした。自分のことばかり考えてしまっていたと反省した。

朝鮮半島では軍事的緊張があったばかりだ。中東の人々は過激派組織の脅威にさらされている。戦争なき社会の大切さを忘れてはならない。平和な日々は何と

しても守っていかなければならない。

安全保障関連法が成立した。日本の専守防衛という方針は崩れる。集団的自衛権が行使されれば、自衛隊が戦闘に巻き込まれるリスクは高まる。

私たちはそれぞれが平和の大切さを認識し、守るための努力を怠ってはならない。世界の人々の心を動かすくらい、日本が平和のために奮闘する姿を見せていくべきではないか。

声を上げなくなったら敗北

無職

(京都府 67)

安全保障法制に怒り心頭に発しながら、大分県中津市の作家・松下竜一さんの言葉を思い出している。

松下さんは1973年に当時は耳慣れなかった「環境権」を掲げ、海岸埋め立てを伴う九州電力豊前火力発電所(福岡県)の建設差し止め訴訟を起した。福岡に住んでいた私は松下さんの主張に共感した。

しかし裁判中に海は埋め立てられ、発電所は稼働開始。訴訟も85年に最高裁で棄却。敗北の中で松下さんが繰り返した言葉がある。「発電所が建設されたから

敗北なのではない。裁判が却下されたから敗北なのではない。我々が声を上げなくなった時が敗北なのだ」

松下さんは2004年に亡くなるまで機関誌「草の根通信」を発行し、声を上げ続けた。その結果、「今ある電力で成り立つ文化生活を見つめ直そう」と唱えた「暗闇の思想」は、夏至前後の夜、電気を消して過ごす「キャンドルナイト」に受け継がれている。環境権も浸透してきた。

松下さんにならぬ、「戦争法」は憲法違反だという声を上げ続けよう。怒りを持続し、次の選挙に反映しなければと心している。

安売法 手続き軽視の欠陥品

弁護士

(東京都 42)

専門は企業法務で、役所との折衝などを通じて、権力乱用に對抗するほぼ唯一の手段として、憲法の重要性を常に

頃から感じている。成立した安全保障関連法について、一法律家として、立憲主義が危機に陥っていると考える。

内容だけでなく手続き面でも問題だ。企業のコンプライアンスに従事する者から見ると、国会審議は結論が決まっているところか考えられない事態が多すぎる。

例えば、企業が新製品を販売するに当たって専門家に意

見を聞き、9割以上が法的問題があると答えたとする。企業は発売をいったん取りやめ、改良に取り組み。

また、消費者(国民)に意見を聞くEアリンク(公聴会)を開いたら、出た声を真摯に分析し、方針決定に十分に時間をかける。

与党は、製品(安売法案)が憲法・法律に違反しないように改良しなかった。連帯と指摘する担当者(内閣法制局長官)の首をすげ替え、消費者の声を聞き流し、欠陥がある新製品を当初のまま発売することを決めた。これでは経営者として失格だろう。